

The background of the entire page is decorated with a variety of colorful hexagons and circles. These shapes are scattered across the page, with some being large and prominent, and others being small and subtle. The colors include shades of blue, green, yellow, orange, red, pink, and purple, creating a vibrant and modern aesthetic.

令和3年度 「学ぶ力」の向上につながる 学校や市町の実践事例

令和4年3月
滋賀県教育委員会事務局
幼小中教育課

「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」の概要

目 標

「読み解く力」*の育成に重点をおいて取り組むことにより、子ども一人ひとりの「学ぶ力」を高める。

グローバル化や情報化が一層進展するなど、社会が大きく変化するこれからの時代に、柔軟に対応できる力が必要です。

子どもたちの「学ぶ力」を高めるためには、一人ひとりの基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、文章や情報を正確に読み解き理解する力が大変重要となります。また、人との関係において相手の言葉やしぐさ、表情などから、相手の意図や思いを読み解き理解するなどの力もますます重要となっています。

こうしたことから、「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」は、「読み解く力」の育成に重点をおいた、子ども一人ひとりの「学ぶ力」を高めることを目指すプランとしました。

*「読み解く力」には、主に文章や図、グラフから読み解き理解する力と、主に他者とのやりとりから読み解き理解する力の2つの側面があるものと捉えています。

学校園、家庭・地域、教育委員会が目的や取組等を共有し
県全体が一体となった取組へ

◆「読み解く力」の育成に重点をおいた**3つの視点**からの取組

視点1 学びを実感できる授業づくり

子ども一人ひとりの学力や学習の状況を把握し、その状況に応じて学習内容が定着するよう指導や支援を行うことにより、すべての子どもが「わかった」「できた」と実感できる授業づくりの取組を推進します。

視点2 学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

子どもたちが、思いやりをもって関わり合い、互いに高め合える、学びに向かう集団づくりを通して、自分の考えや思いなどを、安心して表現できる人間関係を築き、その中で豊かな人間性を育成します。

視点3 子どものために一丸となって取り組む学校づくり

全ての教員が、各校における学ぶ力向上の具体的な取組を共有し、学校全体で組織的に実践する取組を推進します。

◇ はじめに

本冊子は、子どもたちの「学ぶ力」の向上に向けて、「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」の3つの視点において効果を上げている学校や市町の実践事例を紹介しています。また、巻末には、「学ぶ力」検証モデル事業の取組も紹介しています。

県内各地域・学校の状況に応じて本冊子を参考にし、各学校の「学ぶ力向上策」の改善等に活用してください。

◇ 目次

【第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン】

視点1

学びを実感できる 授業づくり

視点2

学ぶ意欲を引き出す 学習集団づくり

視点3

子どものために一丸となって取り組む
学校づくり

視点1

- ① 「読み解く力」の再構築を目指した校内研究の推進
湖南省立石部南小学校 …… 2
- ② 「よごふるさと科(総合)」×「読み解く力」の取組
長浜市立余呉小中学校 …… 4
- ③ 小規模校におけるICTを活用した授業の実践
甲賀市立朝宮小学校 …… 6
- ④ ICT機器を活用した授業改善の推進
高島市立安曇川中学校 …… 8

視点2

- ⑤ 学級経営と教科指導のBest Mix
大津市立坂本小学校 ……10
- ⑥ 特別活動による生徒集団の育成
守山市立明富中学校 ……12

視点3

- ⑦ 「チーム旭森」で取り組む教科担任制
彦根市立旭森小学校 ……14
- ⑧ ふるさと学習を核としたカリキュラム・マネジメント
近江八幡市立安土中学校 ……16

市町の取組

- ⑨ 市で一体となって取り組む課題改善「ひこねっこ わたしの学びを高める一押し」
彦根市 ……18
- ⑩ 学ぶ力・生きて働く基礎学力の向上を目指して
竜王町 ……19

「学ぶ力」検証 モデル事業の取組

- 【特集】「学ぶ力」検証モデル事業における実践事例
守山市・野洲市・東近江市・米原市・愛荘町・豊郷町・甲良町 ……20

①「読み解く力」の再構築を目指した校内研究の推進



「付けたい力」を明確にすることで、授業における再構築を目指しています。

研究の窓口は、国語科(読むこと)です。研究の重点を校内の共通実践とし、再構築を目指した授業づくりを進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1

研究の重点を共通実践し、再構築を目指す

「目指す子どもの姿」を明確化

- ・中学校区の「目指す子どもの姿」を設定・共有。
- ↓
- ・学校の具体的な「目指す子どもの姿」を明確にする。

共通実践(研究の重点)

- ・①から③の共通実践を全教職員・全学年で実施。
- ① 児童が、付けたい力を自覚する。
- ② 「読み解く力」を発揮できる話し合い活動を工夫する。
- ③ 児童が、学習を振り返り、次の時間の課題を意識する。

再構築を
目指した
授業づくり

「目指す子どもの姿」に迫るために、校内で共通実践します。そして、授業研究会で検証し、さらなる授業改善を図り、資質・能力を育成します。

ポイント2

「付けたい力」と振り返りで検証・改善

- ・各学年の「読む力」の系統表で「付けたい力」を確認。
- ・「付けたい力」と児童の振り返りの内容から検証・改善。



○学校の紹介

	湖南省立石部南小学校
学級数	14学級
児童数	239名



【校内研究のテーマ】

主体的・対話的で深い学びをめざして

～付けたい力を自覚し、目的意識をもって聞く・話す子を育てる～

昨年度の共通実践の評価から、今年度の共通実践を設定。

【2019年度 共通実践】

- ・子どもとともに学習計画を立て、1時間の学習の流れを明示し、見通しをもって学習を進めて振り返りを行う。
- ⇒「話し合いによって考えを深める」に課題。

【2020年度 共通実践】

- ・2019年度の共通実践を継続するとともに、話し合いによって考えを深めることに重点を置く。

— 学校教育目標 —

郷土を愛し、自主的・創造的に生活を切り開いていく、
心豊かで、たくましい児童の育成に努める

【求める児童像】

- | | |
|----------------|---------|
| ○ よく考え進んで学ぶ子 | 「まじめに」 |
| ○ 思いやりのある心豊かな子 | 「やさしく」 |
| ○ 力いっぱいきたえる子 | 「たくましく」 |

ポイント1

研究の重点を共通実践し、再構築を目指す

○ 学校の「目指す子どもの姿」を明確にし、全教職員で共有

付けたい力を自覚し、

- ① 見通しをもって課題に取り組み、
- ② 話し合いによって考えを深め、
- ③ 学習過程を振り返り、その成果や自身の成長を自覚することによって、自信をもって自分の思いを表現したり、考えて行動したりする子

共有

【石部中学校区目指す子どもの姿】
中学校3年生で、仲間の考えを聞き、自分の考えを伝えることができる生徒

ポイント2

「付けたい力」と振り返りで検証・改善

授業研究会で協議したことを、共通実践し、次の研究授業につなげます。



自分の考えをもてるように、一人読みの時間を確保しよう。



授業研究会

全文シートを使うことで、叙述をもとにして話し合えるようにしましょう。

付けたい力を、教師も児童もより自覚できるようにしよう。

○ 共通実践(研究の重点)

① 児童が、付けたい力を自覚する

学年別系統表の活用

付けたい力の明確化

5年「すぐれた表現に着目して読み、物語の魅力を伝え合おう」
(大造じいさんとガン)

作成した系統表には、付けたい力、おさえておくべき用語や過去の言語活動実践例を示しています。

前年度(4年生)での学びを基に、単元を構想します。



教 材	つけたい力	指導要領 C読むこと(1)				おさえておくべき用語	言語活動実践例
		イ	エ	オ	カ		
ごんぎつね	☆情景描写の効果を考えながら読む ☆場面と場面を結びつけて、気持ちの変化をとらえて読む		◎	○	○	情景 物語や詩において、登場人物の気持ちとびびき合うようにえがかれた風景や場面の様子。その登場人物の目についた景色や、耳に聞こえた音などとして修飾語とともにえがかれることが多い。	【2020】「なりきり日記」 人物の気持ちの変化をとらえて、人物になりきって日記を書く。
ブラタナスの木	☆場面のうつり変わりに気をつけて読む ☆人物の変化に、どんな出来事かのように関わっているのかを考えて読む	○	◎				【2021】スライドでお気に入りの本を紹介する

② 「読み解く力」を発揮する話し合い活動の充実

目的意識のある話し合い活動



全文シートから情報を取り出す



話し合い活動



話し合い活動で
学びを実感します



- ・交流によって、自分が着目していなかった表現の素晴らしさに気付くことができた。
- ・表現の効果に対する考えが広がった。
- ・表現の効果を考えることで、人物の心情をより深く捉えられた。

③ 児童が、学習を振り返り、次の時間の課題を意識する

振り返りの視点を示す

変化・成長

- ・わたしは、「羽が、白い花弁のように、すんだ空に飛び散りました」は、とても悲しいところだと思っていましたが、Aさんが「きれいだ」と言って、なるほどと思いました。
- ・Bさんの「情景で気持ちが分かる」という発言を聞き、探してみました。探してみるとたくさんの気持ちがかくれていました。

- ・〇〇さんの意見を聞いて、～だとわかりました。
- ・はじめは～と考えていたけど、～と考えが変わりました。
- ・～する力がつきました。

②「よごふるさと科(総合)」×「読み解く力」の取組

～総合的な学習の時間における探究の過程の質的向上をめざして～



総合的な学習の時間における探究の過程を、「読み解く力」の視点を踏まえることで、質の向上を図ります。

よごふるさと科では、9年間を通して余呉の魅力を追究し「住み続けたい余呉のまち」をつくりあげていきます。特に、右の3点を大切にしています。

- ① 余呉のよさや課題への気付き
- ② 余呉の魅力や課題を学び、まとめ、伝える
- ③ 地域の方など様々な人からの学び

活用したい効果的な取組

ポイント1

総合の「探究の過程」の質的向上

「探究の過程」×「読み解く力」による学びの質の向上

- ・「読み解く力」の視点も「探究の過程」も物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みであることから、それぞれのプロセスを関連付けて、「探究の過程」の質の向上を図る。
- ・「よごふるさと科」では、「探究の過程」が連続・発展していくよう、9年間を見据えてカリキュラムを系統的に計画している。

総合は、各学校で明確な目標(育成を目指す資質・能力)を設定し、内容を工夫をする必要があります。よごふるさと科で大切にされている3つの視点は、目標とも大きく重なります。



ポイント2

各教科等で身に付けた力を活用・発揮する総合の時間

活用・発揮する学習場面の意図的・計画的な設定と学習環境による支援

- ・総合的な学習の時間を軸としたカリキュラムを編成し、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮する学習場면을意図的・計画的に設定しておく。
- ・児童生徒が身に付けた資質・能力を活用・発揮しやすい学習環境を整える。

○学校の紹介

	長浜市立余呉小中学校
学級数	10学級
児童生徒数	131名



【校内研究のテーマ】

確かな学力を培い、それを活用し、自ら表現できる子の育成をめざして
～「読み解く力」の視点を踏まえた学習活動を通して～

・「読み解く力」および「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた授業づくりを意識し、以下の取組を中心に「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

- ① 「各ステージでめざす子どもの姿」を意識した教育課程の編成
- ② 単元や授業で付けたい力の明確化
- ③ ゴール(振り返り、リフレクション)を重視した授業展開
- ④ 「読み解く力」のどのプロセスに重点を置くかを焦点化
- ⑤ 「個別最適化された学び」の視点に立った授業展開

学校教育目標

余呉に学び 大きな心で 未来を生きぬく

～しなやかに そして たくましく～

校訓: 考える まじめな たくましい 余呉の子

～めざす子ども像～

- 目標をもち 学び続ける子
- 礼儀正しく 思いやりのある子
- ふるさとを愛し みんなのために行動する子
- すこやかな身体をつくり 進んで運動する子

ポイント1

総合の「探究の過程」の質的向上

質的向上を図るための2つの視点
☆ 各プロセスの学びの充実
☆ 「探究の過程」の連続・発展

○「探究の過程」と「読み解く力」の視点との関連付けによる学びの充実

- ① 課題の設定 … 明確なゴールを設定し、目的意識をもって活動する
- ② 情報の収集 … 目的に応じて必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③ 整理・分析 … 収集した情報を、目的に応じて整理したり分析したりする
- ④ まとめ・表現 … 気付きや発見、自分の考えなどを再構築し、発信する

例えば、4年生「余呉の山」に関する学習では…

豊かな体験等による多様な情報収集

児童自身が
目的に応じて情報を吟味する



タブレット端末で写真撮影しておこう！

山の仕事を体験して感じたこと、考えたことをノートにまとめておこう！

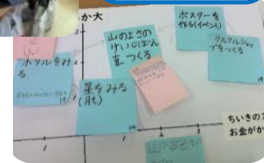
山を探検したときに見つけたものです。もっとみんなに知ってもらうためには…



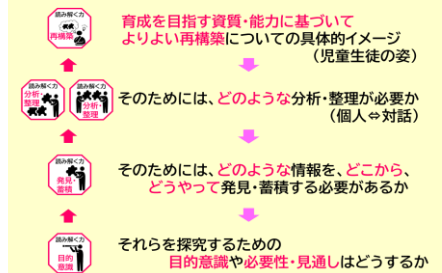
思考ツールを活用し、付箋を貼りながら話合っています。発言内容は、収集した情報を根拠としています。



みんなが考えたアイデアを整理したり、関連付けたりしてみよう。



【再構築から逆算した単元計画】



○「探究の過程」が連続・発展していくような学年の枠を超えた計画

総合的な学習の時間では、児童生徒の考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返されます。

「よごふるさと科」では、各学年の単元の中で探究の過程が連続・発展することはもちろん、学年の枠を超えて、探究の過程が連続・発展するように計画されています。

【よごふるさと科】

◇各ステージ・学年のテーマ

9年間で3つのステージに分け、各ステージ、各学年ごとにテーマを設定しています。

1年生	余呉探検(自然)
2年生	余呉探検(お店・公共施設)
3年生	余呉の伝統行事、余呉で働く人々
4年生	やまのこ学習、みずすまし調査隊
5年生	余呉の産業、余呉の伝統行事
6年生	余呉の歴史、余呉湖ボランティアガイド
7年生	余呉観光PR、職場訪問動画づくり
8年生	余呉を楽しむプロジェクト
9年生	余呉を楽しむプロジェクト

第1ステージ
余呉を知る
余呉から学ぶ

第2ステージ
余呉を調べる
余呉から考える

第3ステージ
余呉を変える
余呉から発信する

ポイント2

各教科等で身に付けた力を活用・発揮する総合の時間

総合的な学習の時間における「深い学び」の一つとして、各教科等で身に付けた資質・能力を何度も活用・発揮することが考えられます。

本事例では、教科等横断的な視点でカリキュラムを編成し、各教科等の学びを総合の時間で活用・発揮できるような学習場面を設定するとともに、既習事項の掲示や活用・発揮していることへの教師の価値付け等、活用・発揮しやすい環境が整えられています。

これまでの学習を生かして、どのような方法で情報の整理・分析を行うかを見通し自身が決定します。

グルーピングしたら、タイトルを付けておこう。

調べたことを付箋に書き出したよ。どうやってまとめようかな？



この前の学級会でやったみたいに、グルーピングしたら、発表することが整理できるね。



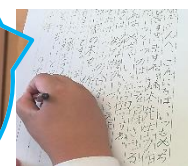
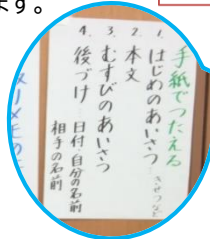
これは、こっちのグループに入れたらどうかなあ。

各教科等で育成された資質・能力

活用・発揮

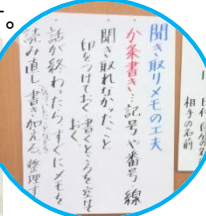
汎用的な資質・能力として育成

総合的な学習の時間で育成された資質・能力



国語科で学習した「手紙の書き方」を活用して、地域の方にお礼の手紙を書いています。

各自の「聞き取りメモ」を共有して、地域の方のお話をまとめています。



③ 小規模校におけるICTを活用した授業の実践 ～児童らが互いを認め合い、自ら学びを創る授業をめざして～



コミュニケーションツールとしてICTを活用することで、
地域の特性にあった取組を行っています。

児童が意見交流を図れるように、学習の中でICT機器を活用する機会を十分に確保し、授業改善を進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1

Zoomを活用した遠隔授業の実施

ICTを有効に活用することで、学習活動の充実を図り、郷土への誇りを育てます。

振り返りや意見交流場面でのICTの活用

- ・相手校と打合せを行い、同じ学習指導案のもとで、時間を合わせて授業を実施。
- ・Zoomを活用することで、少人数では得にくい多様な考え方に触れたり、相手校の発表者を互いに指名することで交流を深めたりして、認め合う機会を作る。



ポイント2

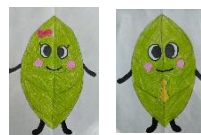
ICT活用による総合的な学習の時間の深まり

自ら学びを創り出し、表出する活動

- ・5、6年生10人が4班に分かれて朝宮茶スイーツを商品開発する過程で、児童自身が学習を見通し、必要に応じてICTを活用できる場を設定。
- ・実際の販売に向けたプレゼン大会では、子どもが、「良さを伝えたい」という目的意識をもち、相手に伝えていく。

○学校の紹介

	甲賀市立朝宮小学校
学級数	6学級
児童数	21名



朝宮小ゆるキャラ
「チャッピー」
「チャップマン」



【校内研究のテーマ】

「自ら学びを創り互いを認め合う児童の育成をめざして」

～すべての子どもが活躍する指導の工夫～

- ・コミュニケーションツールとしてICT機器等を有効に使い、児童相互の学び合いが深まるよう学習展開を工夫することで、授業の中で児童が互いを認め合い、自ら考えを深めようとする姿をめざす。

【学校教育目標】

たくましい心身と郷土への誇りを持ち、
未来を切り拓く

～自ら学び、心豊かでたくましい子どもの育成～

ポイント1

Zoomを活用した遠隔授業の実施

○相手校と学習指導案を検討し、時間を合わせて授業を実施

朝宮小学校と同じく甲賀市立信楽中学校に進学する小原小学校6年生と、学習計画について打ち合わせました。算数科で4単元、社会科では歴史分野のいくつかの時代の学習において、Zoomを使ったオンラインで授業を実施しました。朝宮小学校6年生5名だけでは広がりにくかった意見や考えも、画面を通じた交流を重ねることで、多様な考えに触れることができ、相互の学びが深まってきました。

【算数科「並べ方や組み合わせ方を調べよう」】



問題の自力解決の後、各自の考えを交流し、それぞれの小学校で答えや考え方をまとめます。

お互いの顔を見ながら発表者を指名し、考えを伝えます。



朝宮小では出なかった考え方だね。どう考えたのかな？



樹形図よりも表にまとめると、対戦するチームがわかりやすい。これは、どんな場合でも使えるのかな。

交流の場面でZoomを活用することで、多様な考えに触れ、学びを深めます。

ポイント2

ICT活用による総合的な学習の時間の深まり

○商品化に向けたプレゼンテーションを体験

郷土学習「朝宮茶について学び、その魅力をたくさんの人に伝えよう」

児童が新商品の開発から製造、販売までを体験しました。必要な知識を得たり、自分たちの考えを伝えたりするためにICTを活用できる時間や機会を十分に確保しました。



どんなプレゼンテーションをしたら、アイデアを伝えられるかな。

商品開発



製造



販売



販売会後には、お客様アンケートを分析し振り返ります。また、売上金のよりよい使い道について考えたり調べたりしていきます。



④ ICT機器を活用した授業改善の推進 ～ICT・読み解く力・グループ活動を切り口とした校内研究を中心に～



教科の特性に応じたICTの活用を通して、協働的な学びの実践を進めています。

校内研究として「協働的な学びのある授業づくり」をテーマに、ICT・読み解く力・グループ活動を切り口として授業改善を進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1

日常的に使用できるICT機器の整備

使いたいときに、すぐに使えるタブレット端末

- ・生徒が思い立った時にいつでもタブレット端末を使えるように、環境を整える。
- ・タブレット端末の機能を活用した生徒同士の交流の時間を設ける。

ICT機器の活用は、手段であり、目的ではありません。特別なものとして扱うのではなく、鉛筆やノート等の文房具と同様に使えるようになることがねらいです。

ポイント2

教科の特性に応じたICTの活用

学習場面に応じたシンキングツールの活用

- ・「考えること」をサポートするため、目的に応じてシンキングツールを活用することで、自分の考えをイメージ図として表すことができるようにする。
- ・様々なシンキングツールを知り、使って、慣れることにより、必要に応じて、生徒が選び、活用できるようにする。



○学校の紹介

	高島市立安曇川中学校
学級数	10学級
生徒数	275名



【校内研究のテーマ】

協働的な学びのある授業づくり

～ICT・読み解く力・グループ活動を切り口とした
授業改善の推進～

- ・授業の中で生徒同士が気軽に聞いたり教えたりできる関係性・雰囲気育て、主体的・対話的で深い学びに繋がる授業実践を推進している。
- ・協働的な学びを、ICT・読み解く力・グループ活動の3つの切り口で研究し、教科の特性に応じた個人の研究テーマを設定して実践し、それを交流することで、研究を深めている。

【学校教育目標】

確かな知性 かがやく良知 たくましい心身
知 徳 体

【めざす生徒像】

- ◇良知の心を磨き、正義を行動で示すことができる生徒
- ◇人との関わりを通して、認め合い励まし合える生徒
- ◇自分の才能を開花させるための努力を惜しまない生徒

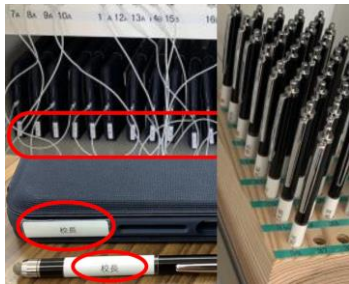
ポイント1

日常的に使用できるICT機器の整備

〇使いたいときに、すぐに使えるタブレット端末

生徒が思い立った時にいつでもタブレット端末を使えるようにする

全ての機器に記名することで使いやすくなります。



机の横にあると、使いたいときにすぐに取り出すことができます。



生徒にとって使いやすい環境を整えることから始めました。



タブレット端末の機能を活用した生徒同士の交流の時間を設ける

道徳

主人公には、こんな思いがあったのだと考えました。



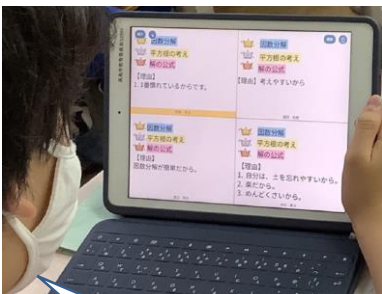
保健体育

タブレット端末で、友だちにアドバイスを送ろう。



変化の様子を動画で撮影しよう。

理科



数学

友だちは、この解き方が一番簡単だと思ったのか。

ビクトグラムの看板 鑑賞①

視点『一番スッキリと見やすい看板』



ビクトグラムの看板 鑑賞②

視点『一番内容が伝わりやすい看板』



美術

友だちが、自分の作品へコメントをくれた。

初め見た時から、伝えたい部分を、大きく作られていて伝えたいことがよくわかったから。後ろの人が、困っている感じでわかりやすかった。

これは私が「1番わかりやすいと感じました！まず、走っている人を見ると、足から走っている感じがわかるし、びっくりしている人を見ると姿勢と顔の近くのびっくりしているマークから、「飛び出してくる人注意」か？とわかりました！それに、角を書いていることから見えないところから人が来るということも伝わってきます！あと、マークが2つ？使われていて上手にできているなと思いました！

「個別最適な学び」や「協働的な学び」のツールとして効果的にICTを活用することが大切です。



ポイント2

教科の特性に応じたICTの活用

〇学習場面に応じたシンキングツールの活用



学級活動：自己紹介・決意表明
自分の目標に向かって、どんなことを頑張るのかを「ピラミッド・チャート」で表しました。



社会：アジアの列強をめざして
日清戦争と日露戦争を「ベン図」を使って比較しました。

⑤ 学級経営と教科指導のBest Mix

～一人ひとりの可能性を伸ばす学校教育の推進～



学校全体で学級集団づくり(学級活動)に重点を置き、身に付けた力を学習に生かす取組を行っています。

『学ぶ力』向上は、まず集団づくりから」と考え、全校で学級活動に力を入れています。学級活動を通して身に付けた、協働的な課題解決能力は、教科学習にも作用し、子どもの「学ぶ力」を高めます。

活用したい効果的な取組

ポイント1 学校全体で取り組み、積み上げる学級活動の実践

学級会を通して協働的な課題解決能力を育む

- ・子どもが主体となって進める学級会を積み重ねることで、共感的理解や受容的な風土が高まり、民主的な学級文化が育まれていく。お互いを信頼して話し合えるようになることで、教科学習においても活発な意見交流ができるようになる。

ポイント2 丁寧な分析をもとに具体策を練る
「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくり

「個別最適な学び」のための丁寧な分析

- ・過去の学力調査の結果から学校の傾向を分析したり、学年や個々の学習状況を丁寧に分析したりして、課題を明確にするようにしていく。

「坂本小スタンダード」を軸に授業改善

- ・全校で共通実践する内容を「坂本小スタンダード」として整理し、「読み解く力」の視点で授業改善を行っていく。

「坂本小スタンダード」は、学習の基本ルールや授業づくり、板書の工夫など、様々な視点で整理しています。一人ひとりの可能性を伸ばすために、全校で足並みを揃えて取り組んでいます。



○学校の紹介

	大津市立坂本小学校
学級数	19学級
児童数	485名

【校内研究のテーマ】

「自分の考えをもち、
学びを深めることができる子どもを育てる」



～協働的な学びを通して、学ぶ楽しさを実感することができる算数科指導～

【校内研究の内容】

- ①単元を見通した授業づくり
- ②表現する力を伸ばす授業づくり
- ③学びの基盤となる話し合う力の向上



【学校教育目標】

「心豊かに たくましく」

【学校経営目標】

「一人ひとりの可能性を伸ばす学校教育の推進」

学級経営と教科指導のBest Mix

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくり

・「できた」「わかった」が実感できる授業プランニング
・どの子にも思考の足跡が分かる板書の工夫
・漢字を読む力を鍛えるペア学習

学級経営
(視点2)

Best Mix

教科指導
(視点1)

・学校全体で取り組む学級会の実践
・坂本小スタンダードによる学習習慣の定着
・気づき・考え・実行するJRC活動

学ぶ意欲を引き出す学級集団づくり

○ 年度当初は学級経営に重点

年度初めの4月は、まず、全校で学級経営の安定を目指します。

その柱となるのは、学級会です。学級会の進め方や指導のポイントを確かめながら、学校全体で学級会を積み重ねていきます。

学級が安定してくるにつれて、力点を教科指導へと移行していきます。教科指導においては、「坂本小スタンダード」の内容を全学級で確認し、共通実践ができるように工夫しています。

ポイント1

学級経営
(視点2)

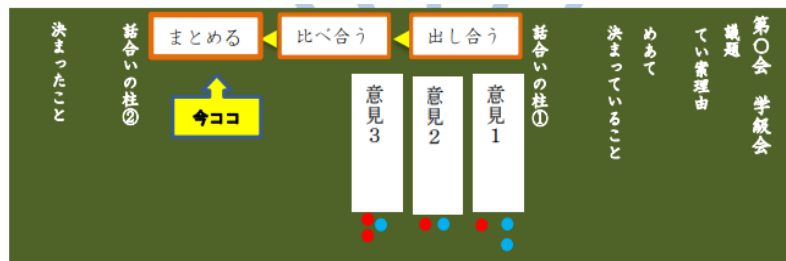
学校全体で取り組み、積み上げる学級活動の実践

○ 協働的な課題解決により支持的風土を高める学級活動

子どもが気づき・考え・実行する(JRCの理念)学級活動、委員会活動、児童会活動を推進しています。子ども同士が向き合って意見を交わし、力を合わせて課題を解決する、協働的な課題解決の経験を積み重ねています。実践を積み重ねることで、支持的風土のある学級づくりに努めています。



○ 「坂本小スタンダード」で学級会の基礎を徹底



左図のように、基本的な黒板の使い方や、司会進行の仕方などを共通理解し、全ての学級で実践しています。さらに発達に応じた、系統的な指導ができるように、実践交流をしています。

ポイント2

教科指導
(視点1)

丁寧な分析をもとに具体策を練る
「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくり

○ 子どもの思考の流れがわかるユニバーサルデザインの板書

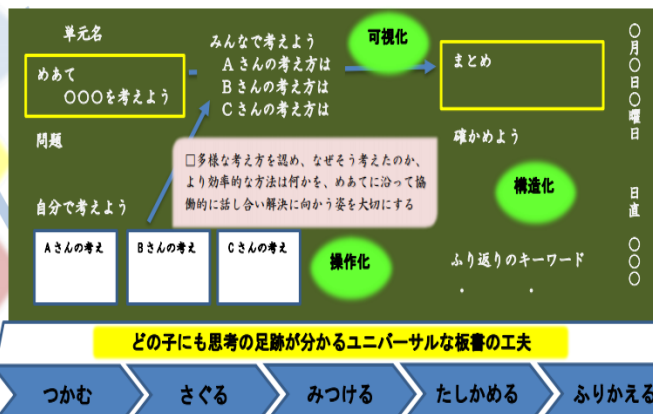
自校の子どもの学力について、平成21年度まで遡って分析し、課題を明確にしています。どの子にもわかりやすい発問・板書・課題提示などを行うことで、「個別最適な学び」の実現を目指しています。また、一人ひとりの可能性を伸ばす授業を実現するために、「読み解く力」の視点で、校内研究を進め、全校で授業改善に取り組んでいます。

○ 漢字の読みを鍛える

□黒板は白・黄色を中心に、楷書で丁寧に書く
□学年の実態に合った漢字を使用
□めあては、単元・題材で付けた力を明確に示す。

□単元によっては子どもの言葉でめあてを設定し、意欲付けを図る

□子どもの考えや方法を授業で生かすことが重要
□カードやボードに記入させ、発表させた後に掲示して一般化するなどの工夫を



□めあての出口が、まとめの言葉になるように、関連づけて書く
□発達に応じて、できるだけ子どもの言葉を活用しながら、正しい言葉で表現する
□適用問題は支援員と連携し、個別指導をする
□習熟の程度に合わせて複数問題を与える
□発達段階や個人の習熟の程度に合わせて、キーワードを設定し、情報を関連付けて書く思考を育てる

課題を克服するために、漢字の読みに焦点をあて、全校で漢字の読みを聞き合うペア学習を行っています。



⑥ 特別活動による生徒集団の育成



話し合い活動を基盤とした学級・学年・学校文化の創造を目指します。

【育成したい生徒の姿】

- ・学級の課題を自分の課題としてとらえられる生徒
- ・学級での話し合い活動について、「楽しさ」や「やりがい」を感じられる生徒

活用したい効果的な取組

ポイント1

『いろは会』[※]を組織し、学級づくりについて交流

※『いろは会』:教員の話し合い活動の指導力向上を目的としたOJT研修

・『いろは会』では、話し合い活動の練習やベテラン教員からのアドバイス、学級の現状の交流とその打開策の交流など、学級担任の目線を大切にし、チームとして学級づくりを考えていく。

ポイント2

話し合い活動の充実

・学級活動の時間を中心として、望ましい人間関係づくりに不可欠な話し合い活動に重点を置き、その充実を目指す。

○学校の紹介

	守山市立明富中学校
学級数	19学級
生徒数	539名

【校内研究主題】

「社会を生き抜くために、思いを伝え合える生徒の育成」
～言語活動を基盤とするカリキュラム・マネジメントの試み～

【学年重点目標】

- 1年生 中学校生活への適応をはかると共に、学級集団に対する所属感を養い、お互いを思い合う協力的な望ましい人間関係を育てる。
- 2年生 中堅学年としての自覚を深め、相手を尊重しながら自主的に行動できる態度を養い、自分や集団をより高める力を身につける。
- 3年生 最高学年としての自覚をもたせ、広い視野に立ち、相手のことや集団の中での自分のありかたについて考え、実践する能力を養う。また今までに培った力を、学校の伝統として後輩に伝える。



【学校教育目標】

心豊かでたくましく
人生を切り拓く生徒の育成

◆めざす学校像◆

心ときめく学校(わくわく)
魂ふれあう学校(にこにこ)
命かがやく学校(きらきら)

ポイント1

『いろは会』を組織し、学級づくりについて交流

○『いろは会』で教員同士が交流

1年間をかけて学級づくり、特別活動について、交流していきます。
また、特別活動部会の教員が中心となり、学級の話合い活動を行う学級委員を対象に、話合い活動の直接指導を行う『あいう会』を実施します。



○ 学級・学年・学校文化の創造

朝の会・帰りの会プログラム、係活動など学級運営において、一定の事項を統一することで、教員一人ひとりの経験や得意、不得意に関係なく、学級の状態が変わらないようにして、明富中学校としての文化を築きます。



ポイント2

話合い活動の充実

○ PDCAサイクルを使った学級集団づくり

月ごとに学級目標に対する振り返りを行い、点数をつけて達成率を数値化し、見直すことで、PDCA サイクルを使った学級集団づくりを行います。

また、どの学級も学級目標と達成率を掲示しています。



学級目標の実践

話合い活動の充実のため、毎月2回、第2・第4水曜日を『特活の日』として設定し、委員会活動やその打ち合わせ、学級の話合いを行うことができます。

また、他学年との積極的な特別活動の交流もしています。



A

①努力点（具体的な目標）

- ・あいさつをしっかりとる
- ・教室をきれいに保つ

P

②計画

学級会で努力点を改善する活動計画を立てる

D

③実践

毎週または毎月目標をたて、学級全員で取り組む



C

④評価・修正

毎月、個人や学級で振り返り、それをもとに新しい努力点を加筆する。

学級目標
例「お互いを尊重し
自主的でまとまりのある学級」

③実践

⑦「チーム旭森」で取り組む教科担任制

～授業の質の向上・生徒指導の充実・働き方改革～



小学校第5・6学年で教科担任制を導入し、授業の質の向上を図るとともに、多面的な児童理解による生徒指導の充実と働き方改革を目指します。

キーワードは、「小規模で」「たくさんの教師で」「たくさんの教科で」

活用したい効果的な取組

ポイント1 授業の質の向上と働き方改革

ペア学級で複数の教科を交換+専科指導教員による授業

- ・第5・6学年において、各教員の教科の専門性を生かした質の高い授業を行う。
- ・同じ内容の授業を繰り返すことで、授業展開をより工夫・改善することができる。
- ・教材研究する教科を減らすことで、教師の働き方改革につなげる。

ポイント2 子どもの姿の共有と生徒指導の充実

複数の教師が関わり、多面的な児童理解に努める

- ・たくさんの教師が一人の児童と関わることで組織的、協力的な指導が可能になり、生徒指導での充実を図ることができる。
- ・子どものことを話す教師が増え、雰囲気向上につながっている。

子どもたちは、いろいろな先生と関わることを楽しみにしています。明るい子どもたちの笑顔と、子どもを語る教師の笑顔で学校全体の雰囲気がよくなりました。



○学校の紹介

	彦根市立旭森小学校
学級数	32学級
児童数	800名



校内研究のテーマ

聴き合い・学び合える児童の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり～

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

- ◇すべての子どもに「テキスト(モノ)との対話」「他者(友だち・教師)との対話」「自分自身との対話」を保障した授業づくり。
- ◇全授業でペアやグループの学びの時間を導入。
- ◇教師は授業の中で「聴く」「つなぐ」「もどす」ことを徹底。
- ◇全教員・全クラスで授業公開。授業の事実に基づき、「どこで学びが成立し」「どこで学びが成立しなかったのか」についてリフレクション(省察)を実施。

学校教育目標

夢と希望をもち、共に学びあい、支えあう児童の育成

まこと(真理)をもとめゆく 確かな学力 やる気
智徳の花をかざしゆく 豊かな心 根気
清く正しきのびてゆく 健やかな体 元気

合い言葉
「やる気」
「根気」
「元気」

めざす学校像
笑顔いっぱい
楽しい学校

めざす子ども像
・自ら進んで取り組む子ども(やる気) 目標をもつ
・最後までやり遂げる子ども(根気) 責任をもつ
・健やかに成長し続ける子ども(元気) 命を大切にする

○教師や子どもの意欲向上を実現する授業づくり

教員の声



話合いの視点を明確にする必要がある！

発問の仕方を少し変えてみよう！



交換授業をすることで、教材研究をする教科が減って、1教科あたりにかけられる時間が増えた！

授業を繰り返す中で、質が高まった！



複数学級で授業をすることで、担当する教科が減る。



働き方改革につながった！

子どもの声



授業がとても分かりやすい！

いろいろな先生に教えてもらえる。

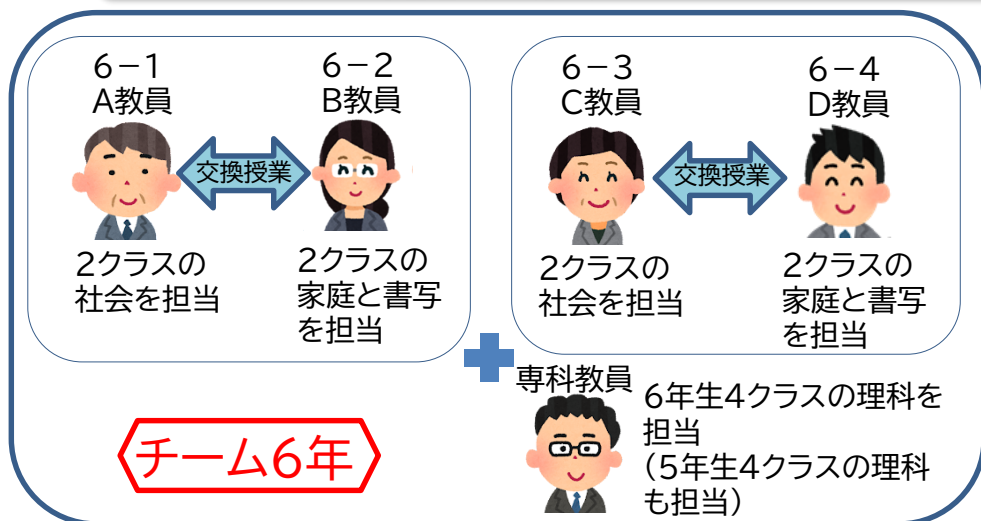


教材研究をする教科が減って、負担も減ったように感じる！モチベーションのアップにもつながる！

○「小規模で」「たくさんの教師で」「たくさんの教科で」

①5・6年生で実施する。

②5年生5クラスを2クラスと3クラスに分けて交換授業。6年生4クラスを2クラスと2クラスに分けて交換授業を行う。



学校の実情に合わせて取り組みやすいスタイルで教科担任制を進めています。

1人の児童に複数の教員が関わることで、児童の多面的理解に努めています。

○生徒指導の充実を図る



理科の時間、Eさんが少し元気がなかったように感じました。



Fさんは、ミシンの使い方がとても上手で、みんなに教えてくれたんですよ。



ありがとうございます。私も注意して見てみます。



ミシンが得意なことを知らなかったわ。すごいねって声かけするわ。

教師間で子どもたちのことをよく話すようになり、子どもの話題がいっぱいの職員室に！

子どもたちは、様々な教師と関わることで、学校生活の楽しさをさらに感じるように！



たくさんの先生にほめてもらえてうれしなあ。



次はD先生の家計科だ。楽しみ！

学校全体の雰囲気がよくなった！

視点3

⑧ ふるさと学習を核としたカリキュラム・マネジメント
～ふるさとに愛着と誇りをもつ生徒の育成を目指して～

地域の方々とともに、「ふるさと学習」に取り組んでいます。

豊かな自然・文化・歴史を生かした体験的な活動を推進し、地域のよさを実感できる、総合的な学習の時間「ふるさと学習」を核とした特色ある教育を、学校と地域が一体となって進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 地域との連携・協働による
体験的な活動の充実

地域の方々とのふれ合いの機会を重視する

- ・地域の方々とのふれ合いを大切にし、地域行事に積極的に参加する子どもたちを育成する。
- ・地域の事業所や地域で活躍される方々との連携・協働を図り、ゲストティーチャーとして関わっていただく。

地域の事業所や地域で活躍される方々との連携・協働を進め、系統性や各教科等との関連に留意したカリキュラム・マネジメントによって、学校教育目標の実現を目指しています。

ポイント2 系統性に留意した各学年におけるテーマ設定と
各教科等での学びを生かした学習活動

3年間を見通して各学年のテーマを設定する

- ・1年【ふるさとを知る】「安土山探訪」
- ・2年【地域で学ぶ】「西の湖プロジェクト」
- ・3年【地域に貢献する】「観音寺城プロジェクト」



○学校の紹介

	近江八幡市立安土中学校
学級数	13学級
生徒数	345名

校内研究のテーマ

つながりを核とした教員の資質向上と
生徒の学びの向上をはかる
～OJT活性化と授業力向上の取組を通して～

学校組織全体で「OJTの活性化」「授業力向上の取組」等学びの場を提供するとともに、同僚とのつながりを意識することで、教員の資質向上につなげる。そうすることで、主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善を進め、生徒が「わかった・できた」を実感できるようにする。



安土中学校教育目標

志高く未来を拓き、
豊かにたくましく生き抜く生徒の育成
～賢く、豊かに、たくましく、
そしてふるさとに愛着と誇りを～

ポイント1

地域との連携・協働による体験的な活動の充実

○地域の方々とのふれ合いの機会を重視する

安土中学校では、ふるさと学習を通じて地域とふれ合い、ふるさとへの愛着を育み、地域行事にも積極的に参加する子どもたちを育成しています。今年度も、様々な形で地域の方々との体験的な活動に参加しました。



「2年生 地域の各事業所で職場体験」

16の事業所にお世話になり、生徒は日頃の学校では得られないことをたくさん学びました。学習後、それぞれ、お世話になった事業所にお礼状を届けました。この学習をきっかけに、自分の生き方を考え将来の姿を思い描いて、中学校卒業後の進路について考えていきます。



「安土フェスティバル」

12月に実施された地域の行事に、会場スタッフや演奏者として参加しました。

「安土健康マラソン」

野球部をはじめ、様々な部活動の部員が地域のマラソン大会に参加しました。

ポイント2

系統性に留意した各学年におけるテーマ設定と各教科等での学びを生かした学習活動



○3年間を見通して各学年のテーマを設定する

1年生「安土山探訪」

【安土山登山】

考古博物館や信長の館で館内の見学を行いながら、調べ学習に取り組みました。また、観光ボランティアの方々による歴史的・文化的な史跡についての講義を聞きながら安土山登山を行い、ふるさとにある国の特別史跡の価値を感じ取りました。

国語科との関連

「調べたことを整理してわかりやすくまとめる」
・集めた情報を整理して、伝えたい内容を明確にする。
・レポートの構成を理解し、表、グラフ、イラストなどを効果的に用いて書く。

ふるさとを知る

2年生「西の湖プロジェクト」

【西の湖のヨシを使った作品作り】

ヨシの文化やそれを扱う地場産業について学び、その一環として大型あんどん作りにチャレンジし、作品は「西の湖ヨシ灯り展」にも出展しました。

ヨシの皮むきや裁断、ヨシを麻ひもで固定しあんどんの外枠を作る作業等を行いました。地域の方々から指導をいただきながら一緒に作業を進めました。

道徳科との関連

「地域を知ろう
～ヨシ灯り展～」
ヨシを生業とされてきた方の西の湖やヨシに対する思いに触れ、自然愛護の大切さについて気付く。

地域で学ぶ

3年生「観音寺城プロジェクト」

【観音寺城プロジェクト】

中学校1年生の時から継続的に行ってきた「観音寺城についての学習」の集大成として、安土町観光ボランティアガイド協会と連携し、地域観光を盛り立てる企画を行いました。生徒たちは、SNSで魅力を伝えたり、スタンプラリーのスタンプを作ったり、来場者に手作り記念品を贈ったりする取組をしました。



社会科との関連

「私たちの生活と文化」
文化の役割や伝統文化が与える物の見方、考え方への影響を知り、一人ひとりができる取組を考える。

総合的な学習の時間に扱った課題について、道徳科の授業において多面的・多角的に考えると、自己の生き方の考えを深める学習へと展開することができます。

地域に貢献する



⑨ 市で一体となって取り組む課題改善 「ひこねっこ わたしの学びを高める一押し」

～全国学力・学習状況調査の結果の分析から～

1 全国学力・学習状況調査の結果分析

全国学力・学習状況調査の結果の分析から彦根市の課題を明確にし、その改善に向けた取組を「ひこねっこ わたしの学びを高める一押し」とし、市内の全小中学校で継続して行う基本取組として具体化し(資料1)、2学期からの取組について提示しました(資料2)。

(資料1)

ひこねっこわたしの学びを高める一押し

わかったことを
しっかりとめよう

- ・めあてにあったまとめをしっかりと書いて確認しよう。
- ・話し合いをしたときは、何が分かったのかをまとめよう。
- ・今日のまとめを自分の言葉で書くこともチャレンジしよう。

たしかめ問題に取り組み、
できたか確かめよう

- ・今日、学習したことができたようになったか、確かめ問題を必ず解こう。
- ・分からないときは、友達や先生に聞いて、最後までやりきろう。

しっかり振り返りを書いて
自分の学びを見つめよう

ポイントに気をつけて書こう！

例

- ・めあてに向かってどれだけがんばれたか
- ・分かったこと
- ・できるようになったこと
- ・次の時間に向けて、気づきのこと
- ・もっと知りたいこと 等

・ノートに振り返りをびっしり書ける力を身に付けよう。

(資料2)

全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた2学期からの取組について

②各校で調査結果を分析して行う具体的な取組

- 分析資料を活用して課題の焦点化と取組の明確化
 - ・「解答状況整理表(S-P表)」や「学力層(四分位)分析グラフ」等を活用し、各学校の課題を焦点化する。そのうえで、「重点的に指導すべき点」を明らかにする。
- 対象学年に限らない系統性を意識した指導の充実
 - ・明らかに「重点的に指導すべき点」を踏まえて、各学年で重点単元等を設定し、系統性を意識した指導を行う。
- 各校で日々取り組んできた内容の見直し
 - ⇒朝読書、短作文、新聞活用、ドリル学習、家庭学習の充実等の取組について、結果分析をしたうえで質の向上に向けて見直し、取組を継続する。
- 「学びの基礎チャレンジ」や「学びのアンケート」を活用した検証・改善
 - ・全国学力・学習状況調査の分析結果を生かした取組の成果を「学びの基礎チャレンジ」や「学びのアンケート」で検証し、学力向上のPDCAサイクルをまわす。

2 各校の課題改善に向けた取組を焦点化

市の取組を受け、各校で課題と、課題の改善に向けての具体策を焦点化し、改善に向けた取組を行いました。

【彦根市立城北小学校の取組】

自校の結果を分析し、課題と改善策を明らかにしました。

○分析資料を活用して課題の焦点化と取組の明確化

「解答状況整理表(S-P表)」や「学力層(四分位)分析グラフ」等を活用し、各学校の課題を焦点化する。そのうえで、「重点的に指導すべき点」を明らかにする。

城北小学校の課題は、やはり記述式問題です！

無答は少ないですが、正答率は全国平均同様、高くはありません。

城北小だけ正答率がちょっと落ちるのが、「2桁かけ算」と「2桁かけ算」という算数の問題でした。

<国語科の重点的に指導すべき点>

○資料(文章)から必要なところを抜き出し、複数の条件に合わせて書くこと。

例・資料から言葉や文を取り上げて書くこと。

・よさを取り上げて、利用法について具体的に書くこと

<算数科の重点的に指導すべき点>

○計算の仕方や面積の求め方など、考え方を図や言葉で書くこと。

例・Aさんの説明と同じように、言葉や数を使って書きましよう。

・求め方を式や言葉を使って書きましよう。

これまでの取組の見直しを行いました。

○各校で日々取り組んできた内容の見直し

⇒朝読書、短作文、新聞活用、ドリル学習、家庭学習の充実等の取組について、結果分析をしたうえで質の向上に向けて見直し、取組を継続する。

書く活動について

五色百人一首に取り組む時間を少し短くして、条件に合わせて書くことに慣れる取組を検討していきます。あきらめず書く姿勢を認めつつ、書ききる指導を心がけてください。

冬休みの宿題について

例年通りのワーク学習に加えて、各学年でテストに向けた学習としてガッデンプリント等の活用を考えてください。

○対象学年に限らない系統性を意識した指導の充実

・明らかに「重点的に指導すべき点」を踏まえて、各学年で重点単元等を設定し、系統性を意識した指導を行う。

学年で話し合って、「書く力をのばす」を意識した指導を計画してください。

①国語科・算数科の11月と12月の単元から、重点単元を選びます。

②その単元が終わったとき、どうなっていれば「書く力をのばす」ことができたといえるか、具体的な姿を考えます。

③その姿に向かっていくために、どんな指導をしていくか、どんな手立てが必要かを考えます。

(5)年 書くことから逃げない! 最後まで書ききる!!

国語科 資料から必要なところを抜き出し、複数の条件に合わせて書くこと

重点単元	国語科が教えられること・グラフや表を用いて書くこと
書く力が伸びた姿	○筆者の考えや筆者の意図を文章から読み取り、要旨を200字程度でまとめることができる。 ○資料と文章を対応させて、自分の考えを600字以上書く。
指導計画・手立て	「国語科が教えられること」 ○筆者の意見の述べ方(段組の構成)の良さを見つける。 ○資料と文章が対応しているところに注目して読み取る。 ○資料を用いる効果と使い分けたい表現を確認する。 「グラフや表を用いて書くこと」 ○資料からわかることを話し合い、自分の考えをもてるようにする。 ○段組の構成例や使い分けたい表現を示す。

算数科 自分の考え方を図や言葉、数を使って書くこと

重点単元	比べ方を考える「割合」
書く力が伸びた姿	○問題場面を数直線図に表すことができる。 ○数直線図と言葉をつないで、どのように式を立てたかの説明を書くことができる。
指導計画・手立て	○数直線図をかくこととよさとかき方を再度確認する。 ○数直線図や式、言葉だけでなく、それらを組み合わせる書くことが説明であることを、例を挙げながら示す。 ○まねて説明する問題や、式から考え方を説明する問題を重視し、必ずノートに書く時間をとる。

3学期:「学びの基礎チャレンジ」や「学びのアンケート」を活用し、取組の成果を検証

3 「学びの再マスター」期間の取組

2月、3月を「学びの再マスター」期間とし、全国学力・学習状況調査の過去問題等に取り組むことで、各校でのこれまでの取組の成果を検証し、再度指導に生かしました。

⑩ 学ぶ力・生きて働く基礎学力の向上を目指して ～徹底反復学習 竜王チャレンジタイムの取組～

1 取組の共通理解・共通実践

竜王町教育委員会では、竜王町の子どもたちの学ぶ力と生きて働く基礎学力の向上を目指して、平成31年1月から町内小学校全学級で「徹底反復学習」(竜王チャレンジタイム)に取り組み、今年度3年目になります。「徹底反復学習」による集中力の向上、脳の活性化により、授業において学習内容の理解が促され、令和3年度の全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均に到達しました。

竜王町

小学校	2校
中学校	1校



2 「短時間・集中」をキーワードにした継続的な取組

さらなるレベルアップに向けての取組

- ・立腰指導
- ・黙筆指導
- ・辞書引き学習
- ・フラッシュ教材トレーニング
- ・全校百人一首大会
- ・校内漢字検定

↓ 運筆指導

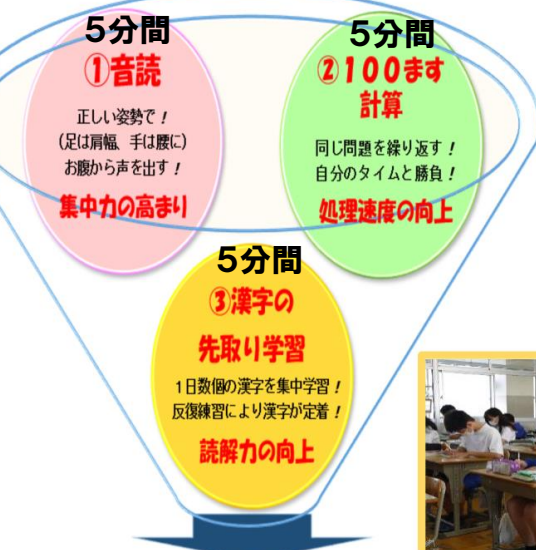


↓ フラッシュ教材活用



← 黙筆指導

→ 辞書引き学習



「竜チャレ」でキラリと光る竜王教育

取組による変容

- 朝から元気な暗唱の声が響いている。全力で声を出す姿が育ってきた。
- 取組を続けることで、どの子も計算をするスピードが速くなった。
- 集中力が高まり、行動や気持ちの切り替えが速くなった。
- 集会などで自然と静かになり、集中して話を聞く子どもが多くなった。
- 漢字や計算ができるようになった喜びから、自信をもてるようになった子どもが増えた。
- 漢字の習得率が上がった。日頃の学習の中でも書く文字が丁寧になった。
- 以前より落ち着き、集中して授業を受ける子どもが多くなってきた。
- 授業中の質問に対する子どもたちの反応が速くなってきているように思う。

◇教職員の経験年数やスキルに関係なく、全員で同じ実践ができることに意味がある。



このようなことを意識して取り組んでいます。

- 「人と比べず、一人ひとりの伸びを評価すること」を全教職員が共通理解して取り組む。
- 徹底反復学習とは脳の活性化を図ることであり、そのために集中を途切れさせない状態を15分間維持する。
- 教職員は、肯定的な声かけを行い、適切な評価を子どもに返していく。

「学ぶ力」検証モデル事業における実践事例

ここからは、令和3年度から新たにスタートした「『学ぶ力』検証モデル事業」のモデル校区(7中学校区)における、「学ぶ力」向上の取組および「共通理解・共通実践」の手立てについて紹介します。

事業の趣旨・目的

県教育委員会では、平成31年3月に「読み解く力」の育成に重点をおいた「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」を策定し、県内の小中学校を中心として、3つの視点*から「学ぶ力」を向上する取組を推進している。

本事業は、子ども一人ひとりの学びの状況を適切に把握することを通して、県内の小中学校において進めている「学ぶ力」向上の取組を検証するとともに、より効果的な取組や指導を共有し、実践することで、子ども一人ひとりの「学ぶ力」の向上を目指す。

- *【視点1】 学びを実感できる授業づくり
- 【視点2】 学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり
- 【視点3】 子どものために一丸となって取り組む学校づくり

事業内容

- ◆県内7中学校区（異なる市町）をモデル校区に指定し、校区の全ての小中学校がモデル校として事業に参加する。
- ◆モデル校は、モデル校区の共通実践を含む「学ぶ力向上策」を作成し、全ての教職員で取組の共通理解・共通実践を進める。
- ◆モデル校区における小学校第4学年から中学校第3学年の児童生徒を対象に、「滋賀県学びのステップアップ調査」を実施する。【小4から中1→2教科（国語、算数・数学） 中2・中3→3教科（国語、数学、英語）】
- ◆モデル校区の学校には、定期的に県の指導主事等を派遣し、子どもの見取りや授業改善を継続的にサポートする。

令和3年度モデル校区

- 【守山市】 河西小学校・守山北中学校
- 【野洲市】 中主小学校・中主中学校
- 【東近江市】 湖東第一小学校・湖東第二小学校・湖東第三小学校・湖東中学校
- 【米原市】 河南小学校・河南中学校
- 【愛荘町】 愛知川小学校・愛知川東小学校・愛知中学校
- 【豊郷町】 豊郷小学校・日栄小学校・豊日中学校
- 【甲良町】 甲良東小学校・甲良西小学校・甲良中学校



(以上 7 中学校区19校)

「滋賀県学びのステップアップ調査」とは？

- ①「**学びの伸び(経年変化)**」を把握することができる。
- ②「**非認知能力**」や「**学習方略**」を把握することができる。

①「**学びの伸び(経年変化)**」を把握することができる。

滋賀県学びのステップアップ調査

◆「どのステップの問題を理解できているか」を調査することで、子ども一人ひとりの学びを「**学びのステップ**」であらわすことができ、以下のような比較が可能となる。

(例)

- ・「今年の自分」と「昨年の自分」
- ・「小4の時の自分」と「中3の時の自分」
- ・「現中3の学年集団」と「その学年が小4の時の学年集団」
- ・「今年の小6の学年集団」と「昨年の小6の学年集団」

「学びのステップ」と「学びの伸び」のイメージ図

算数・数学	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
ステップ12						
ステップ11						
ステップ10						
ステップ9						
ステップ8						
ステップ7						
ステップ6						
ステップ5						
ステップ4						
ステップ3						
ステップ2						
ステップ1						

全国学力・学習状況調査やその他の一般的な調査

◆問題の「正答率」が結果として示される。「正答率」は、調査対象集団や問題が毎年異なるため、経年での伸びをはかることが難しい。

子ども一人ひとりの学びを正しく評価することが、子どもたちの自信や意欲の醸成につながり、教職員一人ひとりの新たな取組へのエネルギーにつながる！



②「**非認知能力**」や「**学習方略**」を把握することができる。

【非認知能力】

認知能力ではない能力全般のことを表しており、例えば「自分の感情をコントロールして行動できる力」等の力

【学習方略】

学習の効果を高めるために児童生徒が意図的に行う行動であり、例えば「計画的に学習する」等の学習方法や態度

非認知能力とは？

人間の能力

認知能力

非認知能力

…認知能力ではない能力全般

いわゆる学力
たし算、漢字の読み書き、文章題、
図形の把握などができる力

県学調で測っている非認知能力の例

自制心	イライラしない、心の平静を保てる など
自己効力感	自分への自信、自己肯定力など
勤勉性	やるべきことをきちんとやる など
やり抜く力	粘り強い、根気がある など

学習方略とは？

→学習の効果を高めるために児童生徒が意図的に行う活動
本調査では、以下の6つの方略に分類

柔軟的方略 学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変えていく活動	プランニング方略 計画的に学習に取り組む活動	作業方略 ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動
人的リソース方略 友人を利用して学習を進める活動	認知的方略 より自分の理解度を深めるような学習活動	努力調整方略 「苦手」などの感情をコントロールして学習への動機を高める活動

中学校区全体の共通実践項目

- 視点1** 「読み解く力」とICT活用で授業改善
- 視点2** 学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり
- 視点3** ICT活用による組織的な校区連携

河西小学校
学級数:40 児童数:1,092名
守山北中学校
学級数:20 生徒数: 476名

中学校区 における「共通理解・共通実践」の手立て

- 中学校区における「共通実践」について年度初めに話し合い、共通理解を図った。
- 「共通実践」を具体的にどのように取り組むのかについて各校で協議し、実践を進めたり互いの授業を参観したりした。
- 「共通実践」を小中が連携し組織的に進めるために、全教職員を三つのグループに分け、各グループのリーダーを中心としてPDCAサイクルで取組を推進した。（※P23「視点3 学校づくり」を参照）

視点1 授業づくり

「読み解く力」とICT活用で授業改善

◆「読み解く力」を意識した授業づくり

- ・算数科を窓口に、対話的な学習場面を設定した授業づくりを行った。年7回の公開授業を通して、「読み解く力」を意識した授業づくりについての研究を深めるとともに、自身の授業に生かした。

⇒授業では特に導入の場面での「発見・蓄積」の場면을充実させることができた。

⇒Google フォームを活用して、授業研究会の振り返り等を行うことで、授業改善のPDCAサイクルを回すことができた。

児童アンケート「授業の終わりに振り返りをしている」58.4%（強い肯定的な回答）

【河西小学校】

◆「振り返り」の視点の提示

- ・「めあて」「ながれ」「まとめ」を意識し、「振り返り」の視点を示した。また、ICTの活用に取り組み協働的な学びを推進した。

⇒教員の振り返りに対する姿勢が変化した。また、タブレット端末で意見集約や資料の提示などを授業で活用できるようになった。今後もさらに教員のスキルアップを図っていく予定である。

【守山北中学校】





◆「学級目標の振り返り」の実施

- ・毎月、学級目標に対する達成状況を、学級会で話し合い、学校生活を改善する取組を進めた。

⇒スモールステップとして、毎月の目標を決めて実践している学級もでてきた。
【守山北中学校】

互いの取組のよさを取り入れ、共通実践しました。

◆ペア学習やグループ学習、学習形態の工夫

- ・ペア学習やグループ学習を意識的に設定することで、自分の思いや考えを表出できる学級づくりを行った。また、型（話し方・聞き方、学習の流れ、声のもののさしの例示等）を提示する等の工夫を行った。

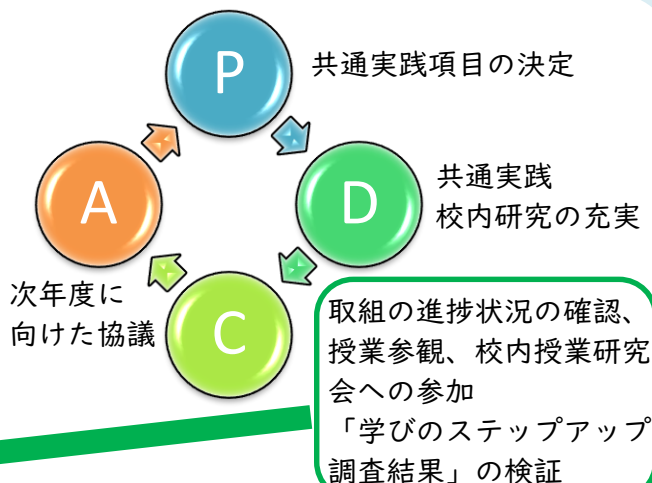
⇒児童アンケート「ペア学習や班学習、授業の中で自分の思いや考えを話している」43.8%（強い肯定的な回答）

【河西小学校】



◆PDCAサイクルで取組を進める校区連携

- ・校区連携を推進するために、全教職員が①読み解く力、②ICT活用、③学習集団づくりの三つのグループに分かれた。そして、グループごとに、小中のリーダーとサブリーダーを配し、校区連携を推進するための組織をつくった。
- ・PDCAサイクルで取組を充実させるとともに、「学びのステップアップ調査」等を生かしながら改善を図った。



◆ICTで見える化

- ・小中の取組を共有したり、手軽に情報交換をしたりするために共通の掲示板であるGoogleClassroom（右図）を開設した。
- ・研究授業の様子を職員限定公開の動画として生中継し、遠隔でも見られるようにした。



⇒全教職員が三つのグループに所属することで、校区連携の機運が高まった。また、リーダー、サブリーダーを中心とした組織を確立したことで、PDCAサイクルで取組を進めることができた。コロナ禍において、ICTを効果的に活用することで、検証・改善するための校区連携の新たな手立てを見出すことができた。

【河西小学校】 【守山北中学校】

2

野洲市立中主中学校区

【中主小学校・中主中学校】

中主小学校
学級数:27 児童数:641
中主中学校
学級数:13 生徒数:333

中学校区全体の共通実践項目

- 視点1** 「まとめ」「振り返り」の時間を大切にする授業づくり
- 視点2** 違いを認め合えるあたたかい集団づくり
- 視点3** OJTを活性化させた、学び合い高まり合える組織づくり

中学校区 における「共通理解・共通実践」の手立て

- 小学校と中学校で行われる研究授業にお互い参加し合った。共通して力をつけていきたいことを、子どもが学ぶ様子を見ながら意見交換したり、改善点などを話し合ったりして理解を深め、連携を強化した。
- 「ことば」の豊かさを目指した読書の取組では、ブックバッグと読書貯金通帳、小中連携してのプチ読書月間などにより、読書環境づくりと読書活動への子どもたちのやる気を継続させた。
- 違いを認め合う安心できる集団づくりを目指して、あいさつ運動を小中学校が連携して定期的実施した。

視点1 授業づくり

「まとめ」「振り返り」の時間を大切にする授業づくり

- ・子ども自身が「学んだことを実感する」ために、学習課題と新しく得た知識を「まとめ」の時間につなげる必要があるとし、授業終わりの10分間に行う活動内容の工夫に重点をおいて、授業改善に取り組んだ。
- ・全教室に振り返りの視点である「中主小ふりかえりの5ポイント」を掲示し、学習内容や子どもたちの実態に合わせて、活用方法を随時変更しながら取り組んだ。

⇒子どもたちの中に「まとめ」と「振り返り」の意識が育っており、「学んだことを『振り返り』で書きたい」という声もよく聞かれる。（児童アンケートにおける肯定的な回答 80.5%＜6年生91%、5年生87%、4年生83%、3年生77%、2年生76%、1年生69%＞）

⇒「振り返り」を学習支援ソフトで共有し、自他の振り返りを見合う場を設定することで、付け足しや書き直しをするなど活用の幅が広がった。

【中主小学校】

中主小□ふりかえりの5ポイント

- 1、新しく分かったこと・大切だと思ったこと
- 2、今までの学習と似ているところ
- 3、「おもしろいな・すごいな」と思ったこと
- 4、友だちの考え方でよかったところ
- 5、次に考えてみたいこと





- ・ICTを効果的に活用して交流場面を増やした。発表機会が増えたことや、交流から再度考え直し、学びを深めたことで、「わかった」「できた」という実感を高めた。
- ・学習支援ソフトで、「まとめ」「振り返り」を行い、家庭でもまとめを生かした自主学習が継続的・発展的にできるような授業の工夫を行った。

⇒学校評価生徒アンケート「ICT機器利用授業改善項目」
R2:89.8%→R3:93% (肯定的な回答)

⇒質問紙調査(滋賀県学びのステップアップ調査)
「学習方略の人的リソース*」4月2.8→12月3.2 (5段階評価の平均値)
*人的リソース:友人を利用して学習を進める活動 【中主中学校】

視点2 学習集団 づくり

違いを認め合えるあたたかい集団づくり



- ・「子どもの思いに丁寧に耳を傾け、受けとめる」「話している友だちの方に体を向け反応しながら聞くことを促す」など、自治意識の高まりや「自分の思いを出し合い、聴き合い、認め合える、安心感のある温かい学級づくり」を目指し取り組んだ。

⇒学校評価教職員アンケート(中間報告より)「学校評価における自治的意識の育成に関わる項目」70%、「温かく居心地のよい学級づくり」93%
【中主小学校】

- ・各教科等の授業において学び合い活動を取り入れ、自分の考えを仲間話す機会を多く設けた。

⇒認めてもらうことで自己肯定感が高まり、自分の意見に自信をもって、より活発に活動する姿が見られた。

⇒学校評価生徒アンケート「一人ひとりが認め合える学級づくり」
R2:91.9%→R3:94.9%(肯定的な回答) 【中主中学校】



視点3 学校づくり

OJTを活性化させた、学び合い高まり合える組織づくり

- ・月に一度、先輩教員の授業から学んだり、日々の実践を交流したりして、職員の学び合いを推進、活性化した。研修内容は、「学びたいこと」「得意なこと」をアンケートで把握し設定した。
- ・毎週水曜日の放課後、職員打合せの後の5分間を「プチ学年会」として設定し、共通実践シートを活用して日々の学ぶ力向上策における実践を振り返るとともに、学年内で情報共有した。



⇒校内特別教室の効果的な活用の仕方や授業展開のポイントなど、具体的に話を聞いたり、少人数で話し合ったりしたことで、すぐに実践できそうなヒントを得ることができた。

⇒若手の教員に対して企画しているが、話を聞いた他の職員からも「資料がほしい」「参加したい」との声が上がっている。
【中主小学校】

- ・G-OJTにおいて、専門知識をもつ教員が講義や体験実習を行い、教職員一人ひとりの資質向上を目指した。
(研修例:6月「特別支援教育」、9月「Excel活用」、10月「合唱コンクール」の指導を通した学級づくり、11月「人権教育」など)

⇒OJTミニ研修会参加教員 R2:70%→R3:100%

⇒若手教員の「学ぼうとする意欲」と、中堅・ベテラン教員の「知識や技術を伝えたい」という思いが相まった深まりのある研修会を実施できた。
【中主中学校】



3

東近江市立湖東中学校区

【湖東第一小学校・湖東第二小学校・
湖東第三小学校・湖東中学校】

中学校区全体の共通実践項目

視点1

言語活動を重視した授業づくりを目指し表現力を向上させる

視点2

認め合い高め合える学級集団づくりに取り組む

視点3

全教職員の共通理解のもと組織的かつ計画的に
校内研究の向上に努める

中学校区における「共通理解・共通実践」の手立て

- 授業改善の共通実践事項として、まずは東近江市が掲げる「め・じ・と・ま・ふ」に全学級で取り組むことを確認した。
- 2学期初めに、各校の校長と学ぶ力向上推進リーダーが集まり、これまでの取組内容や進捗状況の確認をした。
- 各校の授業研究会で配付された資料等を共有し、実践内容等の共通理解を図った。

視点1

授業づくり

言語活動を重視した授業づくりを目指し表現力を向上させる

- ・ めあてと連動したまとめと、学びの振り返りを言語化した授業づくりをする。
- ・ I C Tや学校図書館を活用するなど、情報活用能力の向上を図る。

- ⇒各教科で、まとめや振り返りを言語化させるため、生徒の実態に合わせたワークシートやプリントを作成する等工夫した授業となってきた。
- ⇒まとめのために、必要な語句を提示したり、他の生徒のまとめを共有したりするなどの活動を行った。それに伴い、生徒の振り返りの記述が少しずつ充実してきた。
- ⇒学校司書と連携した授業を各学年で行い、読書活動に対する意識付けを行うことができた。また、ブックスタンドにより、学習内容に関連した図書を用意してもらい、発展的な内容につなげることができた。

【湖東中学校】



- ・本年度重点を置いた活動は、「交流」である。校内研究での研究授業において、必ず「交流」の場を設定し、児童自身が必然性を感じる交流を行うよう努めた。

⇒授業研究の回数を重ねるたびに、成果と課題を明確にすることで、交流に必然性を感じられるようになった。また、交流によって知識を再構築する児童の姿が見られるようになってきた。

【湖東第一小学校】



視点2 学習集団 づくり

認め合い高め合える学級集団づくりに取り組む



共通実践シートを活用し、以下の内容などについて教員が2週間ごとに振り返りを行った。

- ・自分の考えを交流する機会や人前で話す機会を設けているか。
- ・仲間の考えに反応（うなずき等）し、多様な意見を出し合う雰囲気づくりを行っているか。
- ・授業だけでなく、日々の生活、係活動や当番活動等で多様な考え、新たな見方や考え方をし、一人ひとりの考えを認め合う場を設けているか。

⇒考えを聞き合うことで、相手のことを知り、互いに認め合うことにつながった。児童同士の考えを伝え合うことはできてきたが、相手の考えを生かしながら、自分で課題を見つけ出し、探究するまでには至っていない。今後、お互いに探究した学びを交換し合えるようにしていきたい。

【湖東第三小学校】

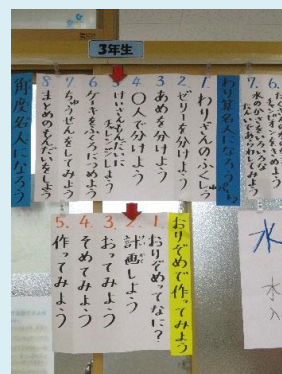
視点3 学校づくり

全教職員の共通理解のもと組織的かつ計画的に 校内研究の向上に努める

- ・教師の板書と児童のノートが同じ構成になるように板書計画を行った。また、「め・じ・と・ま・ふ」の学習の流れがわかるような、全校共通のノート指導を行った。
- ・毎週の教職員の打合せの時には児童の様子を交流し、職員間で共通理解を図れるようにした。

⇒すっきりとまとめられた板書計画で、児童はノートを作成することができた。学習の流れを掲示することで、安心して学習に向かうことができたのではないかと考える。支援を要する児童に対し、打合せで共通理解することで組織的に対応することができた。

【湖東第二小学校】



河南小学校
学級数:8 児童数:164
河南中学校
学級数:4 生徒数:59

中学校区全体の共通実践項目

- 視点1** 課題設定・課題解決・振り返りを大切にした授業展開
- 視点2** 道德教育・人権教育の充実
- 視点3** 地域とともに歩む学校づくり

中学校区 における「共通理解・共通実践」の手立て

○前年度末の小中学校合同の会議等で、共通して取り組んでいく内容を話し合い、共通理解を図った。視点1の「学びを実感できる授業づくり」として、「め・じ・と・ま・ふ」の授業展開を小中学校ともに実践していくこととした。この取組により、課題設定・課題解決・振り返りを大切にした授業改善や、自ら考え、判断し、表現する力の育成を進めることについて共通理解した。

視点1 授業づくり

課題設定・課題解決・振り返りを大切にした授業展開

- ・「め・じ・と・ま・ふ」の授業展開による授業実践を全教科で行った。
- ・初年度は特に「めあて・まとめ・振り返り」を重点的に意識して全教科で授業を行った。
- ・「め・じ・と・ま・ふ」のそれぞれをカードにして、黒板に貼ることで視覚的な支援ができるようにした。今年度は生徒が見通しをもってゴールに向かえるようめあてを意識した授業づくりを各教科の特性に応じて工夫した。

⇒教員アンケート

「授業では、（生徒が）見通しをもって授業に取り組んでいるか」

85%（肯定的な回答）

「授業では、（生徒が）授業の内容をしっかり振り返ることができているか」

80%（肯定的な回答）

めあて、振り返りともにアンケートにおいて肯定的な回答が8割を越えた。黒板に貼る「め・じ・と・ま・ふ」のカードを活用してもらうよう全ての教員に働きかけたことがよかったと考えられる。今後も、「め・じ・と・ま・ふ」の定着を図るとともに、形骸化しないよう努めていく。

【河南中学校】



各教科等で、めあてを工夫し、「め・じ・と・ま・ふ」を意識した生徒主体の授業展開を心がけました。

- ・1学期と2学期にQ Uテストを行い、分析の仕方について研修会を実施した。学級の児童の状況を把握し、その後の学級集団づくりに生かした。



⇒Q Uテストの結果の見方について、講師を招いて研修し、分析することで、現在の学級の状況を把握し、アプローチの仕方を考えていくことができ、よりよい学級集団づくりに向けての手助けとなった。

⇒「友だちと仲良く活動できたか」92%（「できた」と回答）

【河南小学校】

- ・コミュニティ・スクール推進事業「河南学区に住むすべての人が笑顔になれる取組の実践」をテーマとして、「笑顔いっぱい花いっぱい活動」「笑顔いっぱい学びいっぱい活動」「笑顔いっぱい挨拶いっぱい活動」に取り組んだ。

⇒子どもたちが地域の方との交流を通して、人とつながることの楽しさや地域の方の優しさに触れ、伝統的な遊びの楽しさを知り、豊かな情操を養うことができた。

⇒総合的な学習の時間においては、地域の方に講師に来ていただくことで、教員だけでは伝えられない地域のことについて学習を深めることができた。

【河南小学校】



- ・コミュニティ・スクールを中心に地域の方々にボランティアで花植えに参加してもらい、地域の数か所に中学校での取組と分かるプランターを置いていただいた。
- ・「花いっぱい活動」として、生徒が1人1プランターのベゴニアの苗を植え、夏休みには各自で家に持ち帰り、世話をし、新学期に再び持ち寄り、プランターを全て校庭に並べた。その後、ベゴニアコンテストを行い、立派に育てた生徒を投票により集会で表彰をした。

⇒校庭に多くのプランターが並ぶ様子は感動的で、来客者からよい感想をたくさんいただいた。また、多くの地域の方に参加していただくことができ、学校と地域が一体となって取り組むことができた。

【河南中学校】

中学校区全体の共通実践項目

- 視点1** 個別最適化された学びの実践
- 視点2** 家庭学習における「自主学習」の推進
- 視点3** 授業参観による交流促進(校内・校区内)

愛知川小学校
学級数:21 児童数:510
愛知川東小学校
学級数:20 児童数:461
愛知中学校
学級数:15 生徒数:419

中学校区 における「共通理解・共通実践」の手立て

- 夏季休業中に各校の校長と学ぶ力向上推進リーダーが集まって会議をもち、児童生徒の実態や取組について交流した。
- 小学校・中学校各児童生徒の授業中の姿や学習に向かう姿勢を具体的に出し合うことで、どの発達段階・どの教科等においてもノート指導が大切であると共通理解できた。
- 校区内の他校の校内研究やOJT研修に参加し合うなど、校区全体で教員の授業力向上を目指すことができた。

視点1 授業づくり

個別最適化された学びの実践

- ・夏季休業中に、各学年の学習内容を復習できる「ステップアップ学習プリント」を全教員で作成した。

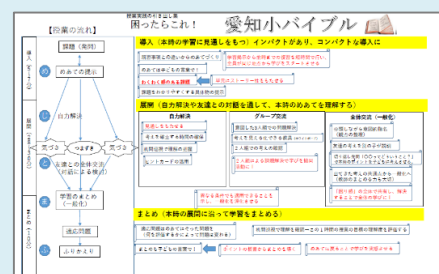
⇒作成した「ステップアップ学習プリント」は個別最適化した学びに有効であった。合格点に達したら次の課題に進めること、児童が自分のつまずきを把握し、前学年の学習内容に戻って復習できる仕組みであること、厳選された問題数であることなどから、多くの児童が意欲的に取り組んだ。

⇒また、「算数カルテ」に足跡を残しておくことで、担任も児童の学習の実態を具体的につかむことができるようになった。

- ・校内研究(算数科)を主軸とし、児童のつまずきや気づきを生かし、対話から学びを深める授業の実践を進め、その成果や学びを「愛知小バイブル」にまとめた。

⇒児童アンケート「算数の授業がよくわかる」
10月:69% → 2月:82%

【愛知川小学校】



視点2 学習集団 づくり

家庭学習における「自主学習」の推進

- ・中学校進学後を見据えて、小学校でも「期末テスト」を実施した。それぞれの校内行事等の関係で期末テストの実施日を校区の3校（1中学校2小学校）で同じにすることはできなかったが、近い日程で行った。本校では、1学期は6年生のみ、2学期は5・6年生で行った。
- ・期末テストに向けた自主的な学習を促すため、4～6年生で「けてぶれ」（計画・テスト・分析・練習）の自主学習に取り組み始めた。廊下の掲示板の活用や5・6年生での学び合いなどを通して、他のクラスや学年の自主学習ノート进行交流できるような取組も行った。また、4年生が自主学習を始める時には、6年生が進め方を教えに行く取組も行った。

⇒手引きを配付したことで、保護者に家庭学習の大切さや行い方などを知ってもらうことができた。高学年では、児童が自分の課題に合った家庭学習に取り組めるようになった。特にテスト週間では、計画的に家庭学習に取り組めた。

⇒5・6年生への児童アンケート「家庭学習に自分から取り組むことができるか」

10月：76% → 2月：82%

【愛知川東小学校】



お互いの自主学習ノートをもとに交流したり、下学年に自主学習の進め方を教えたりしました。

視点3 学校づくり

授業参観による交流促進(校内・校区内)

- ・生徒のために一丸となって取り組む学校づくりを進めていくために、まず、学ぶ力向上策について共通理解を図った。
- ・各教員が共通実践シートを作成し、それぞれの視点について今年度、各自が実践したい目標を設定し取り組みを進めることとした。
- ・各教員が空き時間や廊下番の時間を利用して、他の教員の授業を参観する「ちょこっと授業参観週間」を設定した。
- ・学びのステップアップテストの結果を分析することで本校の今後取り組むべき課題が整理され、その課題を解決するための具体的な方策を3名程度の小グループで研究するプロジェクトを立ち上げた。1月末に各グループの提案をまとめ、全教員が関わりながら次年度の実践計画を作成した。

⇒教員アンケート「授業研究や他の教員との交流を行うことができた」72%（10月）

⇒教員アンケート「ちょこっと授業参観週間に他の先生の授業参観を行った」93%（10月）



【愛知中学校】

中学校区全体の共通実践項目

- 視点1** 家庭学習の充実と基礎学力の定着に向けた取組
- 視点2** 話し合い活動の推進による共感的人間関係の育成
- 視点3** 相互の授業公開・参観の推進による授業力の向上

豊郷小学校
学級数:11 児童数:245
日栄小学校
学級数:11 児童数:243
豊日中学校
学級数:10 生徒数:213

中学校区 における「共通理解・共通実践」の手立て

○中学校区で共通理解を図るため、担当者会議を定期的に行う。また、何か相談したいことがあれば、その都度、連絡を取り合う。

○中学校区で、視点1～3の共通実践項目を定め、それを達成するための具体的取組を各校の実態に応じて考え、実践する。

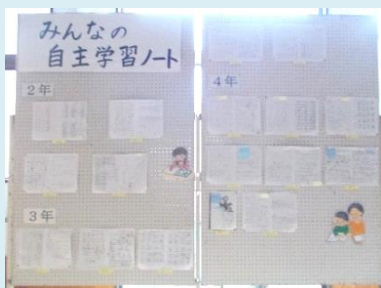
視点1 授業づくり

家庭学習の充実と基礎学力の定着に向けた取組

- ・家庭学習の定着と質の向上のため、「自主学虎の巻」を作成し、全校児童に配付した。
- ・自主学習の具体例を子どもたちが知る機会として、長期休業明けに「がんばり展覧会」を実施し、よい学習ノートを展示した。

⇒児童アンケート（肯定的な回答）「学校の授業時間以外に、学年×10分+10分、勉強をしますか」

7月：50.8%→1月：74.6% 【豊郷小学校】



学年×10分+10分の定着・自主学習の充実

- ・家庭学習時間のチェック
- ・自主学習ノートの展示

語彙力や書く力を高める取組

- ・毎週水曜日5校時終了後に、語彙を増やすことや書くことに慣れることを目的として行っている「パワーアップタイム」の充実を図った。

⇒4～6年生への児童アンケート（肯定的な回答）

「家で計画を立てて勉強している」

R2：54%→R3：57.1%

「自分の考えを理由を付けて発表したり書いたりできる」

7月：58.3%→12月：63% ※令和3年度

【日栄小学校】

- ・校内研究で特別活動担当から「話し合いのルール」を提示し、全ての学級で共通実践を進めた。
- ・各学年で「学習集団づくりプラン」を作成し、学期ごとに見直すことで、自他の違いを認め合いながら、仲間とともに高め合える学年・学習集団の育成を目指した。

⇒生徒アンケート（肯定的な回答）

「自分の考えを発表する機会が与えられていた」

7月：36%→12月：49%

「安心して授業に臨める学級だ」

7月：77%→12月：80%

【豊日中学校】



- ・校内研究と連動させ、算数科の授業の中で必然性のある話し合いの場を設定した。
- ・意見交流の場面では積極的にICTを用い、互いの考えを比較したり共有したりできるようにした。
- ・学級活動や総合的な学習の時間などで、話し合い活動の時間を確保したり、「聴き方名人7つのレベル」をもとに、自分事として主体的に聴くスキルを指導したりすることで、子ども同士の意見がにつながる話し合い活動を心がけた。

⇒意見交流の場を意識的に設定し、目的に応じて学習支援用ソフトを活用することで、互いの考えを分析・比較・整理しながら、自分の考えを再構築することができるようになった。

⇒ペア・グループ学習を通して、意見の違いを認め、尊重しながら話し合いを進めることができるようになった。

【豊郷小学校】

- ・町内保幼小中の職員相互の授業参観を行い、校区全体での授業力向上を図った。

⇒中学校への参観の機会が増えたことで、小学校から中学校への「学びの接続」を意識するようになった。また、2学期から保育園・幼稚園の職員も研究会へ参加することで、保幼小中という長いスパンで子どもたちの学びを考えられるようになった。

⇒各教員が1回以上いずれかの学校の参観ができ、他校で見られた授業の工夫やアイデアを、取り入れることができた。

【日栄小学校】

- ・「すきま校内研究」として同僚の授業を参観することで、教員の指導力アップにつなげた。

⇒教員アンケート（肯定的な回答）

「他の教員の授業を参観し、参観した授業を基に、授業づくりについて他の教員と交流した」7月：31%→12月：65%

【豊日中学校】



甲良東小学校

学級数:10 児童数:195

甲良西小学校

学級数:7 児童数:139

甲良中学校

学級数:7 生徒数:157

中学校区全体の共通実践項目

- 視点1

「くりかえし」学ぶ

視点2

「くりかえし」育む

視点3

「くりかえし」関わる

中学校区 における「共通理解・共通実践」の手立て

- 前年度の3月に、3校の教務主任が集まり、小中学校が同一のテーマで取り組めるよう協議した。

○甲良中学区の児童生徒の課題として、根気強さに欠ける面があること等が挙げられるため、キーワードを「くりかえし」と設定し、「くりかえしの学習」「くりかえしの指導」を取組の重点とすることにした。

視点1

授業づくり

「くりかえし」学ぶ

・反復や練習など「くりかえし」の学習活動を設定する。
・既習の学習内容に「くりかえし」取り組ませる。

◆子どもが自ら考えたいと思う課題設定や導入の工夫

- ・「くりかえし」学ぶには、子どもが自ら考えたいと思う必要があると考え、このことを校内研究のテーマ（算数科）として授業改善に取り組んだ。

・研究授業に向けての指導案検討会では、一人ひとりの教師が考えた課題設定の方法を交流したり、研究授業後の授業研究会において、課題設定の場面の子どもの様子や、次時以降の課題設定をグループごとに考案したりした。



⇒指導案検討会では、他の教師が考えた課題設定の工夫として、以下の案が出された。

- ＊「簡単にできることからはじめ、少しずつできないことへと段階を踏む導入」

＊「自分の学級の子どもたちが興味をもっていることを課題設定に生かす」

＊「日常生活や社会の事象から問題になりそうなものを見だし、必要感をもたせる」

＊「算数はかせ（はやい・かんたん・せいかく）を意識した課題設定」

課題設定や導入の工夫を交流したところ、「みんなのやり方を聞くのは大変参考になり、学びが多い。」「この方法を授業でも取り入れよう。」と、実際に研究授業の導入の場面や、他の教師の日常の授業で取り入れる姿が見られた。

⇒研究授業では、やらされているのではなく「自ら学びたい」という子どもの姿が見られた。日常的な実践においても、教師一人ひとりの個性を出し、各学級の実態に合った課題設定をされるようになってきた。このように、課題設定の工夫をくりかえすことによって、教師自身の技術と子どもたちの意欲の向上が見られた。



【甲良西小学校】

視点2 学習集団 づくり

「くりかえし」育む

- ・ともに学んだり考えたりする場面を「くりかえし」設定する。
- ・子どもがつながる場面を「くりかえし」設定する。

◆ペア・グループで話し合い活動を取り入れた授業づくりの継続

- ・校内研究授業の一環として算数科において、自力解決→ペア・グループでの話し合い→全体交流→まとめ・振り返りの授業の流れを意識した授業づくりを継続してきた。

⇒自力解決の時間に自分の考えをノートに書くことで、ペア・グループでの話し合いの時には、自分の考えを自信をもって伝える子どもが増えた。仲間の考えをしっかりと聞く姿や考えを認める姿が見られるようになった。



◆東小スタンダード（学習規律）の導入・継続

- ・学習規律を具体的に記した東小スタンダードを作成し、全校でじっくりと丁寧に指導することを継続してきた。

⇒すぐに成果が見られるものではないが、どの学年も共通した指導を継続しているため、少しずつではあるが、学習規律を意識して取り組む子どもの姿が見られた。



【甲良東小学校】

視点3 学校づくり

「くりかえし」関わる

- ・OJT研修などを通して「くりかえし」子どもを見取る。
- ・一人ひとりの課題に「くりかえし」粘り強く寄り添う。

◆校内研究の「自分化」

- ・4月に、各教科における授業づくりのポイントや3つの視点における「くりかえし」の実践内容を各教員が明確にし、それらを冊子にまとめ、教員間で共有した。

- *「主体的・対話的で深い学び」における目指す生徒の姿、「読み解く力」の育成における授業での具体的な場面、ICT活用のポイントを、各教科で「学ぶ力」育成プランとしてまとめた。
- *3つの視点における「くりかえし」の重点事項を、各教員が「Myくりかえしプラン」としてまとめた。

⇒校内研究等、組織的な取組を各自が自分の授業実践に具体的に落とし込むことで、確実な実践（授業改善）につなげることができた。

R3学校評価「授業の実施について常に改善を図ったか。」

肯定的な回答95%（よくあてはまる：53%、あてはまる42%）



◆取組に対する定期的な検証・改善

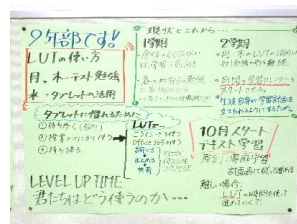
- ・組織的に取り組んでいる「復習継続法」と「甲良中LEVEL UP! TIME」について、8月に学習の様子や成果・課題をテーマに教員間で協議を行った。課題のみを挙げるのではなく、解決策を協議することで、2学期以降の取組をより充実させるようにした。

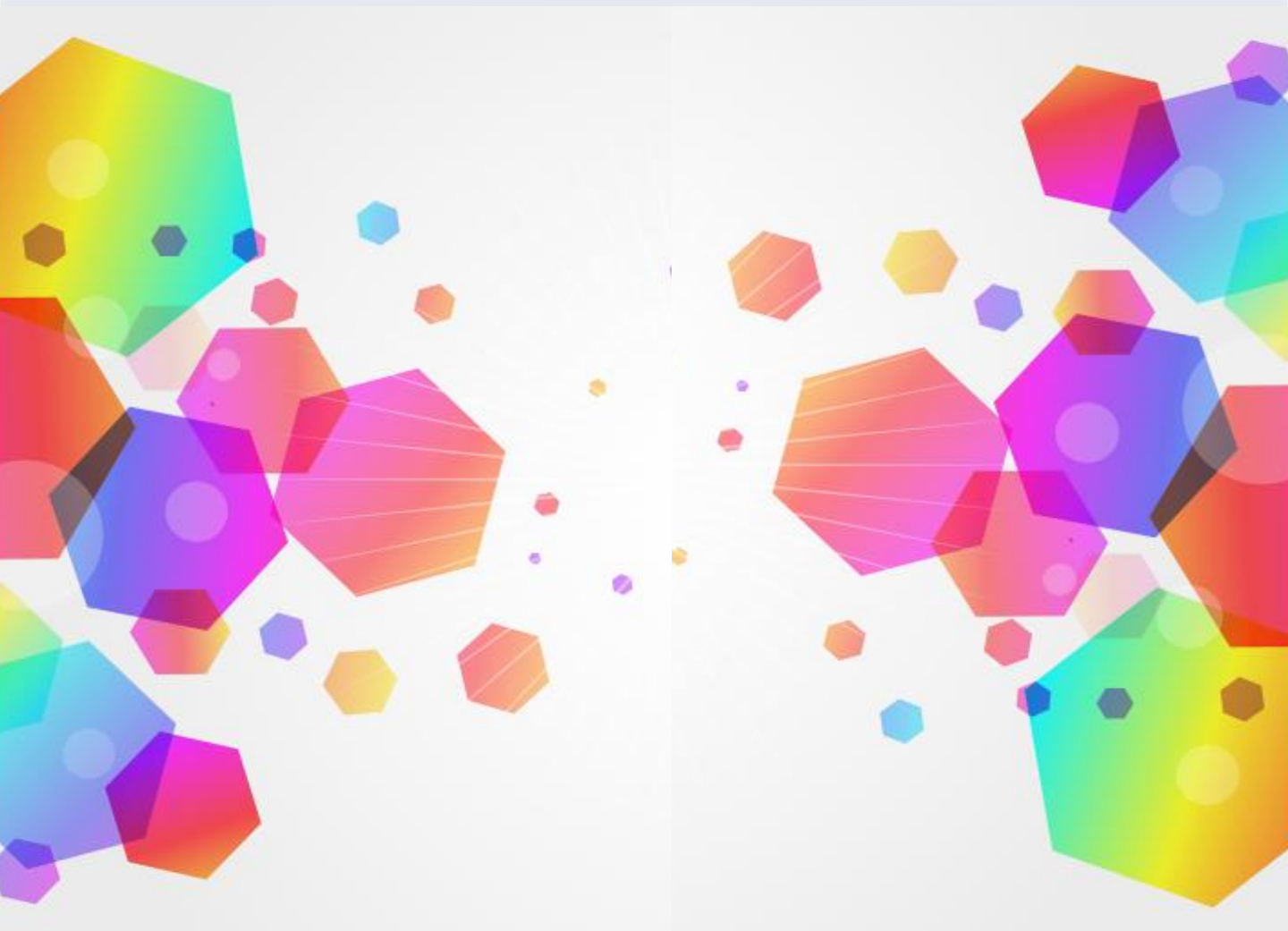
⇒取組に対する検証・改善を繰り返すことが、取組の質的な向上につながり、生徒の学ぶ姿・意識にも変化が表れてきた。

R3学びの礎アンケート「前学年時より家庭学習の時間が増えたか」

肯定的な回答72%（とてもそう思う：34%、そう思う38%）

【甲良中学校】





滋賀の子どもたちのために、
各学校において、子ども一人ひとりの
学びの質を高めましょう。